

倒
錯
童
話
集

2.5

星の銀貨



目

次

(グリム童話より)

星の銀貨

3

解説、次号予告、おくづけ

.....

巻末

童話クラブ'94

星の銀貨

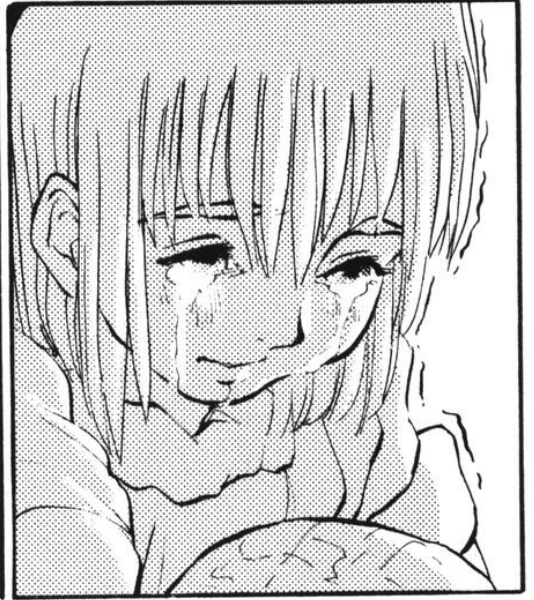
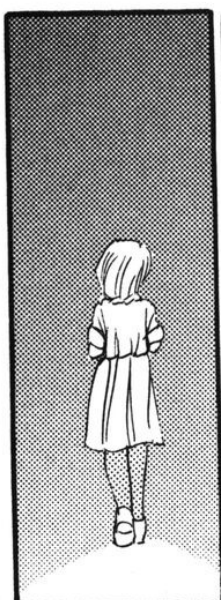


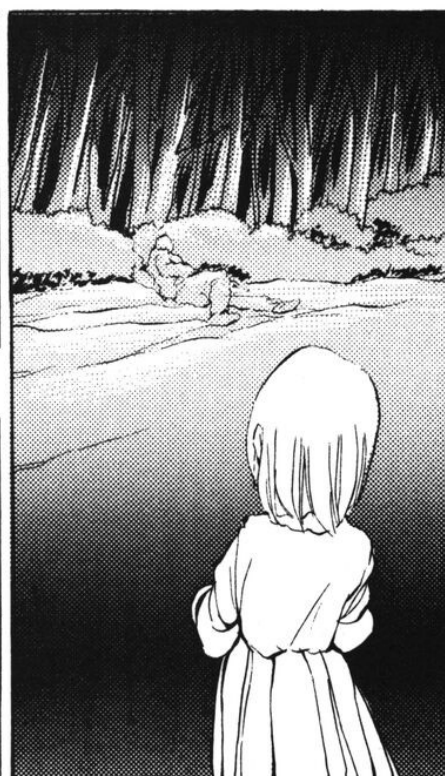
ここはもう、
おまえさんの家じゃ
ないんだよっ

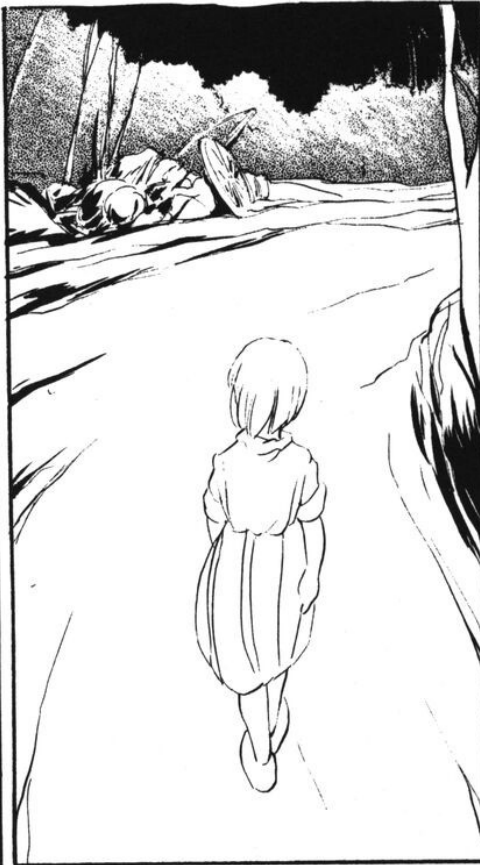
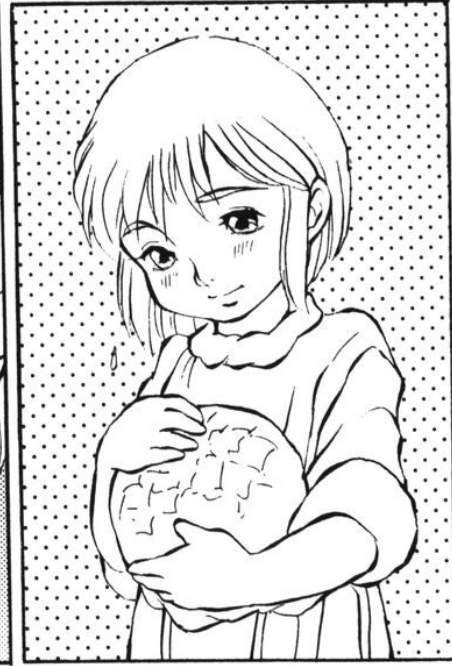
ほら、
出てった
出てった

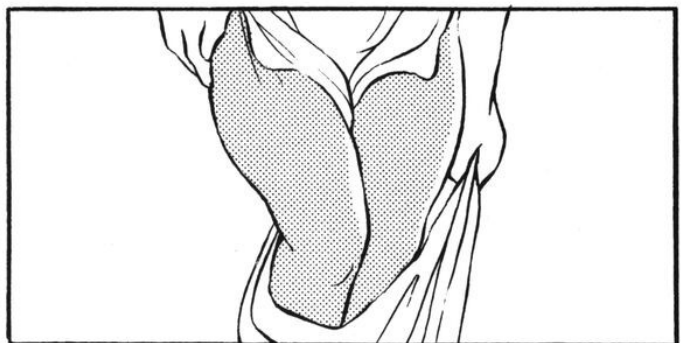
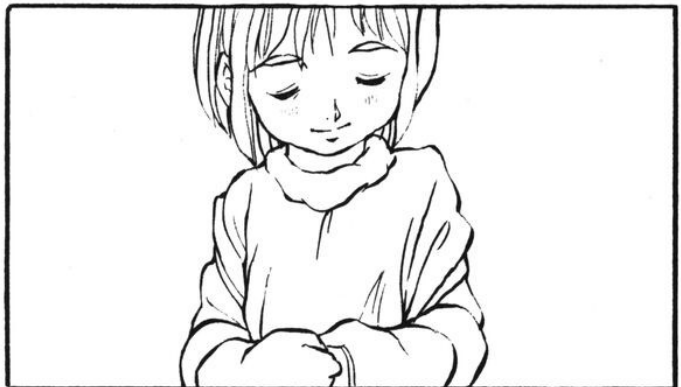
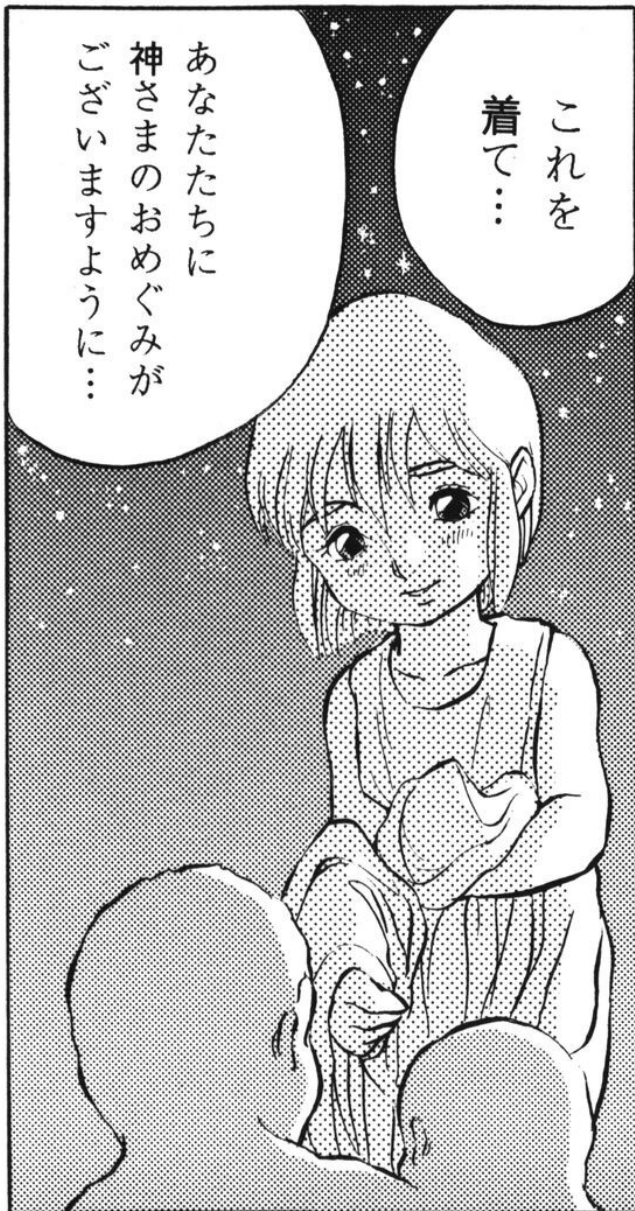
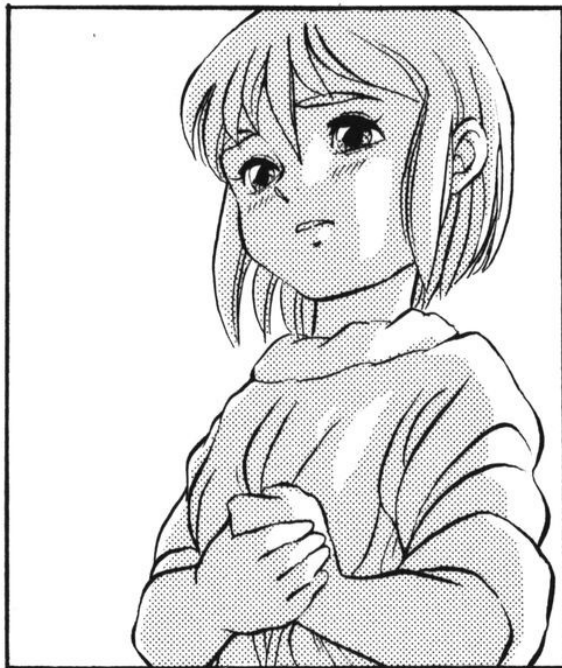


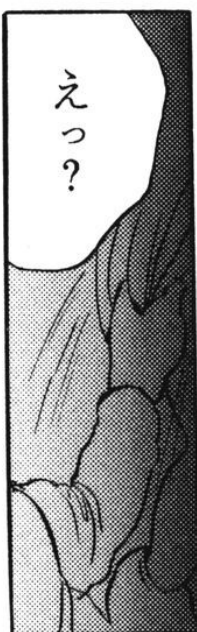
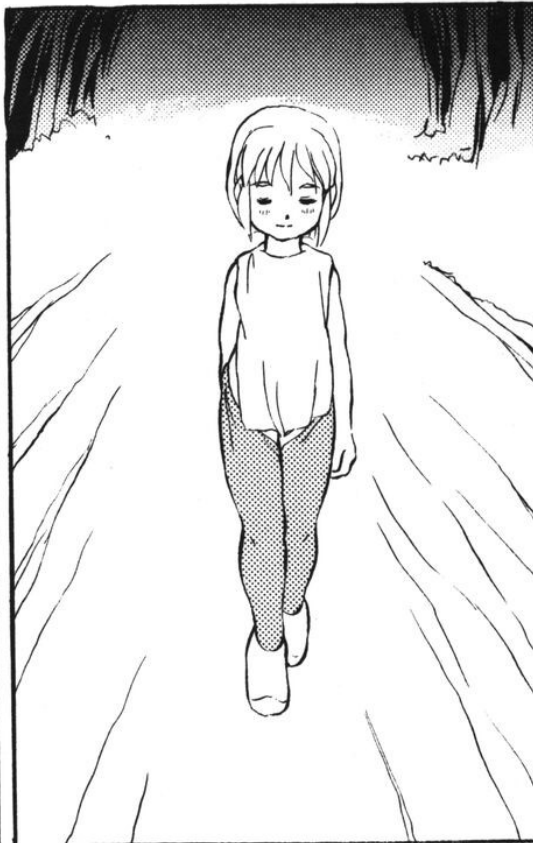
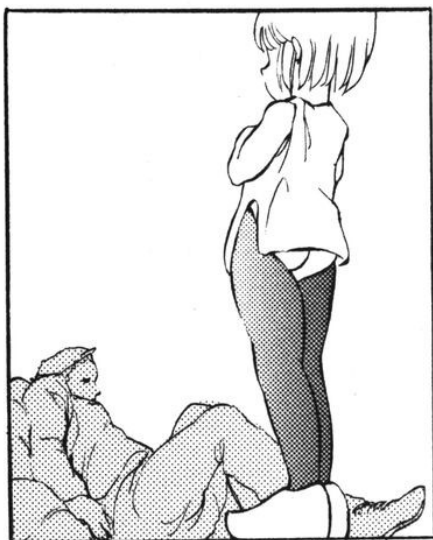


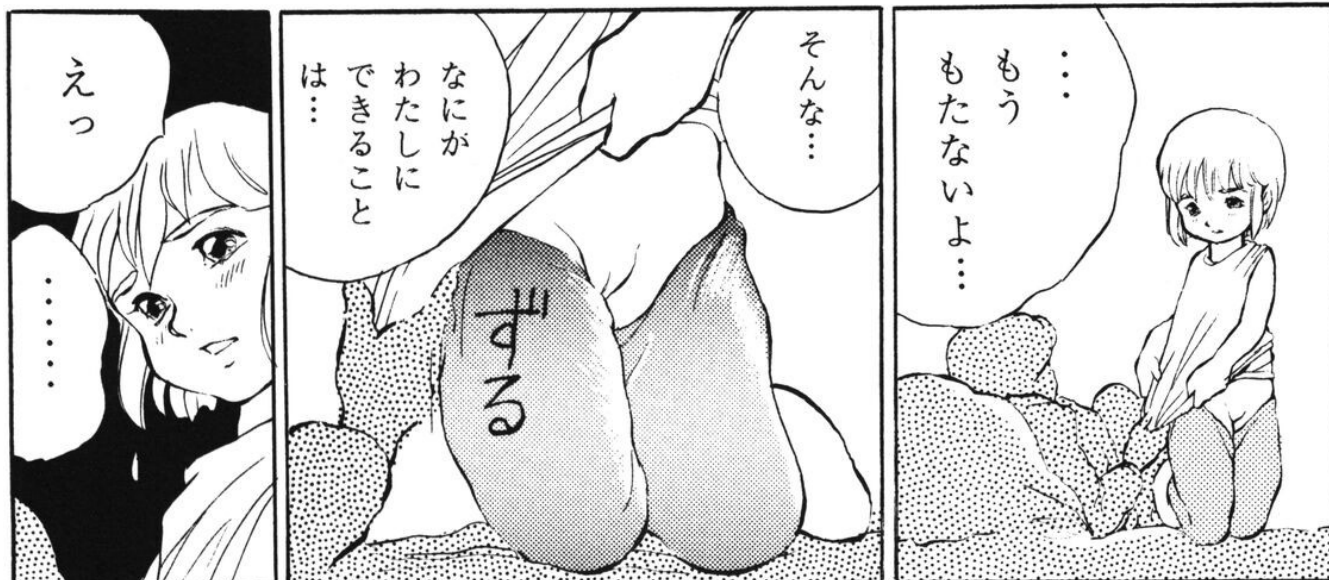


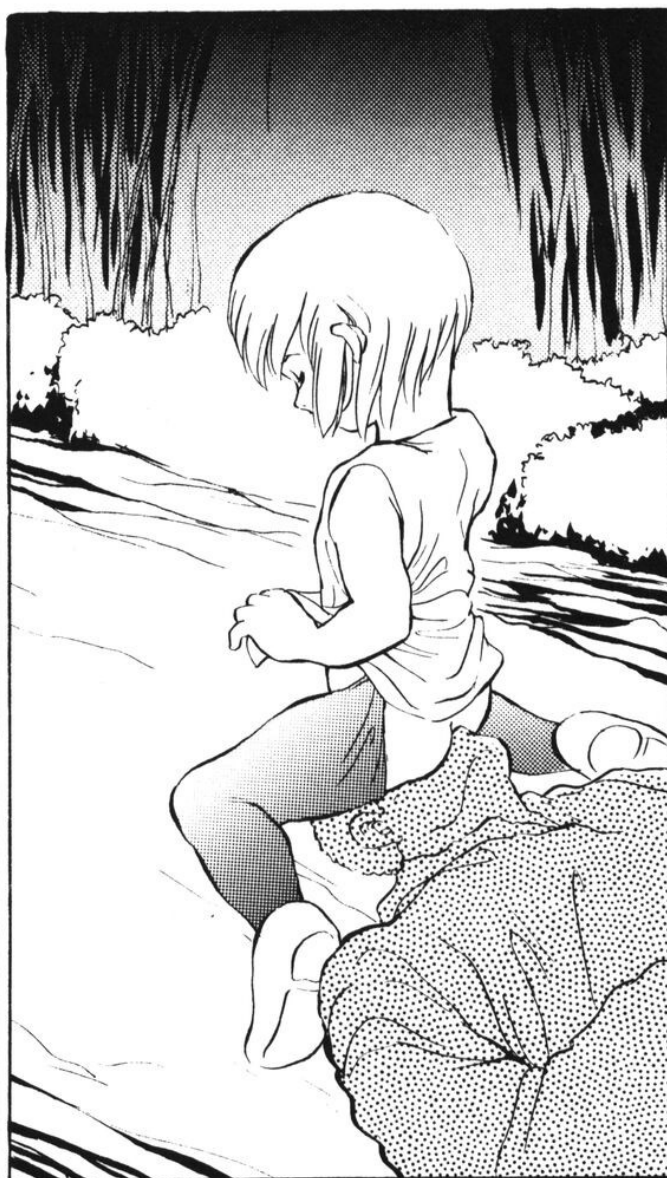




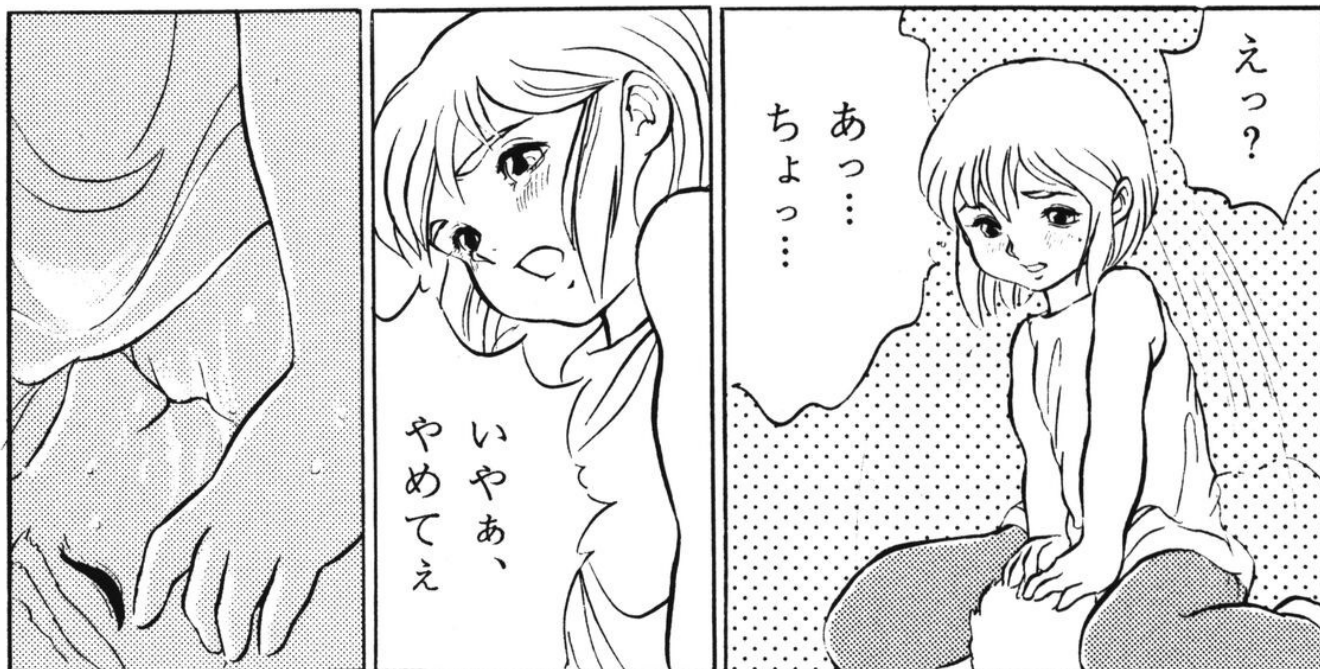


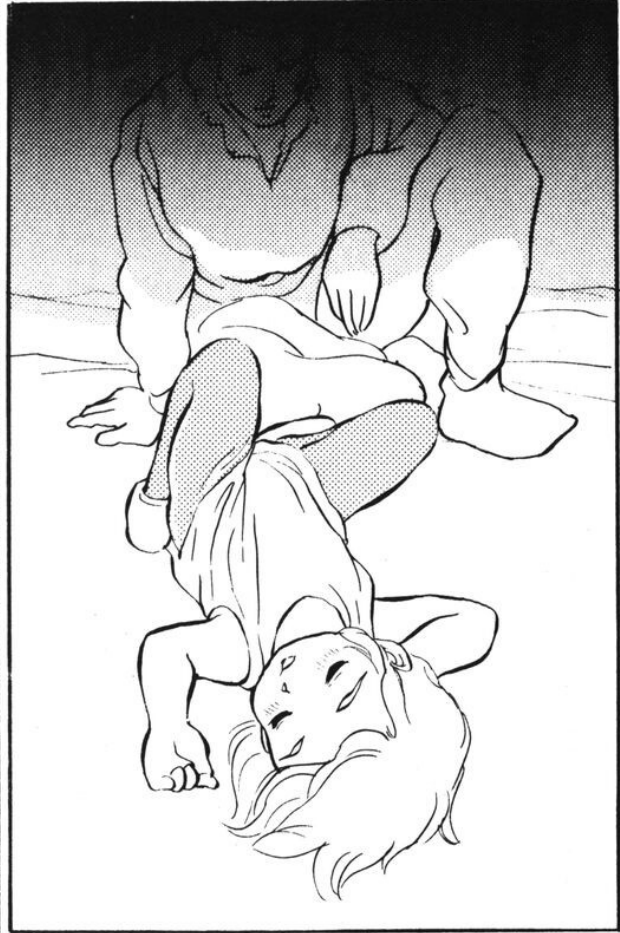


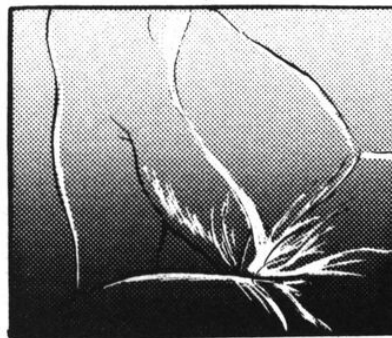
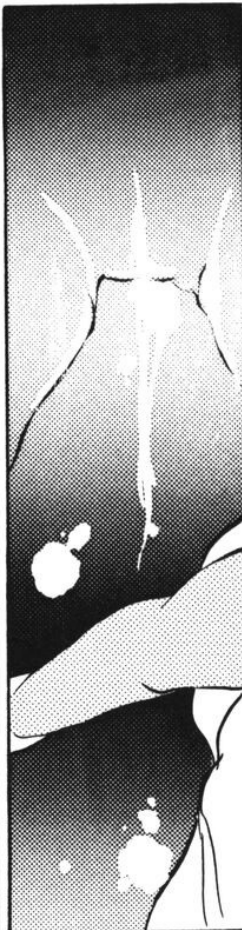


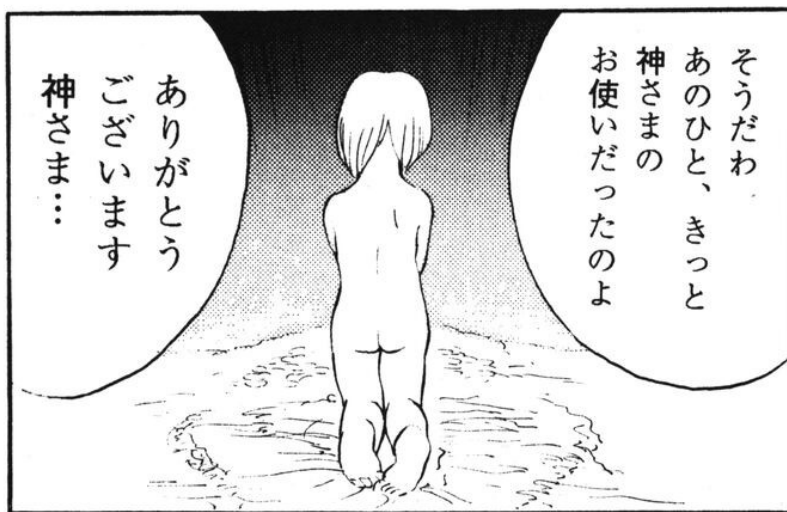
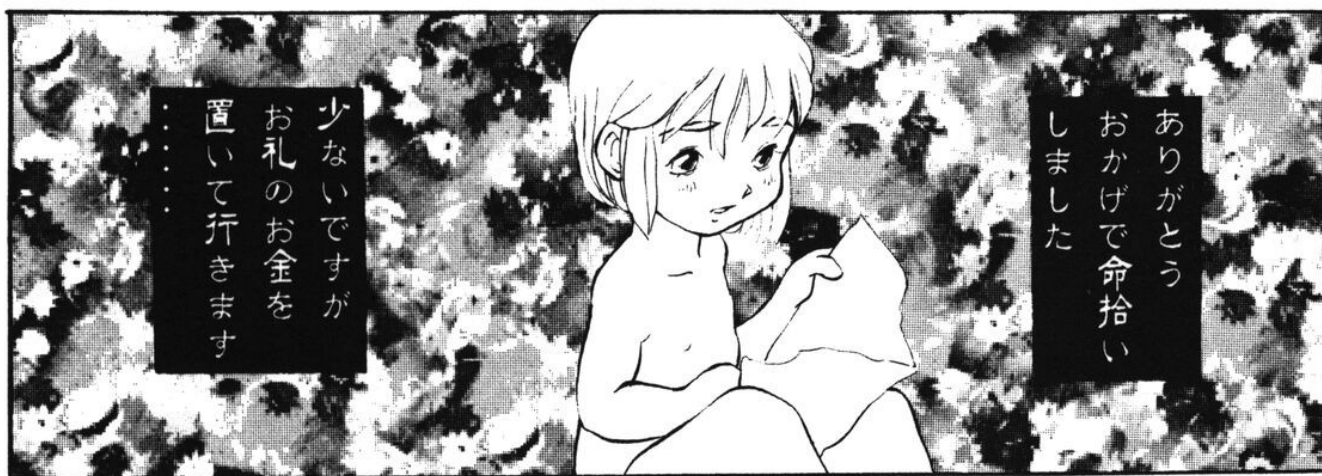












FIN. Dec.'94

星の銀貨

解説

「星の銀貨」はグリム童話の通しナンバーで153。岩波文庫版では『完訳グリム童話集4』に所収されている。どちらかと言えば、かなり短かく、邦語訳で文庫2ページに満たない小品である。

むかし昔、あるところにとしのいかない女の子がいました。おとうさんもおかあさんも死んでしまつて、今では、住むにちいさな部屋もなく、ねむるにかわいい寝台一つなく、とうとうおしまいには、きるものといえは胴着のたぐい、それに、なさけぶかい人にめぐまれたパンをひとつ手にもつてるほか、それこそ、塵ひとつないまじさでありました。けれども女の子はまことに善くできた信心ぶかい性質でした。それで、いまではだれ一人かまってくれてもないので、神さまばかりを便りにして、とほとほと野原へでていきました。……

(金田鬼一訳／グリム童話集)

このように物語は始まり、道すがら出会う男や子供たちに、みずからのパンや着物を与えていつてしまふ。とうとう下着すらなくして、産まれたままの姿で森を彷徨よつていけると、天から輝くばかりの銀貨が降つてきて、さらに、いつのまにか上等のリンネル地の下着も身にまといつており、女の子はそのお金で一生涯しあわせに暮らしました。……というものである。

とても美しいお話で、心が洗われるようである。だが「年端のいかない」「信心ぶかい」女の子が、身につけたものを一枚いちまい脱いでゆくところには、同時に興奮も禁じ得ない。ラストで天からの賜わりものが、(銀貨を除くと)上等の下着だけ、というのもいい。女の子の肢体に纏われた輝くリンネルの薄地が、月光に透けている様を想像すると……神様も心得たものである。

このような——卑近な言い方をすればストリップ的な——要素を持った作品は童話にはいくつか見受けられる。グリム童話では「マリアのこども」「六羽の白鳥」。「六羽の白鳥」はアンデルセンでは「野の白鳥」として同じ題材を扱っているが、それぞれ脱ぐ場面がありながら、その状況や雰囲気はまったく異なっているのが興味ぶかいのであるが……機会があったらいずれ取り上げてみたか思っているので、今回はこの辺でお茶を濁すとします。

どてろう

"星の銀貨" おおきく

◦ 今回の女の子の衣装は、ABRAM社の"Daily Life in Holland in the Year 1566"を参考に描きました。大抵の服飾、民族歴史衣装関係の本が、立ちポーズ、(しかも前だけ)という現状で、これだと服の構造や下着との相関が殆どわかりません。その点、この本は、膨大な量の水彩スナップで、服を着る動作から生活用品、小物まで、当時のあらゆる風物を描写しておりとても面白い役立ちます(本ではコピーを載せたが、たのですが、そのヒマもないので...)



☆パンツは、どうやらはいてない...
(当時、少くとも子供は)

☆今回は
シニテラ、
グロウの何かを、
左ページにCUIとか
書いてありますが、
多分、UIでしょう。
'95夏まで
思います。



これは絵も入る
これも当時のオランダの
風物なのだろうか?
リアルな水彩画
に、腰の動き
を擬す為
←流線が
泣かせる

童話クラブ・連絡先

〒113 東京都文京区本駒込 3-32-1 高垣方
喜多「童話クラブ」宛

倒錯童話集 2.5

後記

この度は「倒錯童話集2.5～星の銀貨」をお買い上げくださり誠にありがとうございました。今回、見送りの形となった「シンデレラ」は来年春のCレヴォ、もしくは夏コミにて、発行を予定しております。お目に留まりましたらよろしくお願い致します。

この本を作るにあたり、ZUN先生、トム出版様をはじめ多数の方々にお世話になりました。さらに前回の「赤ずきん」では、数名の方から感想や激励のお手紙を戴きました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

94年12月某日 童話クラブ代表

どてろう

倒錯童話集 2.5 「星の銀貨」

著者：どてろう

De Terrault'94

発行：童話クラブ

印刷：トム出版

1994年12月30日初版発行

※この本は18歳未満の方には販売できません。

